

「教育と指導が混在している」「病棟スタッフ・一般社会への啓発を含めるべき」との意見を取り入れ科目名を(移植における患者教育と相談)とし、移植チームのスタッフからの相談への対応と社会への啓発に関する項目を追加した。

(病態とケア)

膵臓、小腸、小児に関する項目が必要との指摘があったためこれらの項目を追加した。科目名を(臓器移植看護)に変更した。

(移植看護技術)

科目名を(移植プロセスと調整)と変更した。

外来通院、退院後の長期ケア(外来通院、就学・就職、妊娠・出産)についても含める必要があるとの意見をもとに項目を追加した。更にレシピエントの適応評価の調整・支援の項目に通院・喫煙・飲酒に関するアドヒアランス・コーピングの内容を追加した。

(移植看護技術指導)

専門家の指摘を踏まえ、移植チームのスタッフ、移植施設以外の主治医、移植チーム以外の薬剤師、MSW、理学・作業療法士等との調整・連携について追加した。科目の内容が意志決定支援に関するものであることから科目名を(意志決定支援の方法)に変更した。

5. その他

全体を通じて「ドナー」は「生体ドナー」と「脳死ドナー」として明記すべきとの指摘があったことから、より明確な表現とするためこれに従い修正を行った。

6. 総時間数

共通科目を全て必修とし、合計時間数を105時間としたこと、専門基礎科目を再編し、(フィジカルアセスメント)を演習科目としたことから総時間数は630時間(全て必修科目)となった。

2) 臓器移植コーディネーター養成研修参加者の意見による修正

臓器移植コーディネーター養成研修の参加者

からはカリキュラム全般、各教科目(シラバス)ともに概ね一定の評価が得られたと考える。下記に自由記述に記された内容を中心に、最終案作成において行った修正点を記す。なおカリキュラムの時間数が多いと回答した研修生もいたが、各科目の内容を精選した上で妥当であると判断し、特に時間数は削減しなかった。ただし「フィジカルアセスメント」は基礎専門科目から演習科目に変更し、座学の時間数を減らし、より実践につながるカリキュラムとなるように工夫した。

1. 教育課程の目的

「レシピエントや家族に対する関わりを明記すべき」との意見があり、加筆・修正した。

2. 期待される能力

上記同様「ドナー以外の対象者に対する権利擁護の関わりについて明記すべき」との指摘を考慮し、加筆・修正を行った。

3. 共通科目

選択科目としていた「看護管理」、「対人関係」については、その科目の内容とコーディネーターの職務の関連が非常に深いため必修科目すべきとの意見が多く聞かれた。検討した結果、「看護管理」、「対人関係」の内容は専門基礎科目の内容と重複する点も多いが、その基礎的な知識や考え方を担保していく上で、選択ではなく必須科目とすることとした。

4. 専門基礎科目

基礎医学科目についても内容的にもう少し深めた方がいいのではないかという意見が多く聞かれたことから、「移植医学」の科目を独立させ、時間数を増やした。

5. 専門科目

「教育」と「移植看護技術指導」の科目内容の住み分けが曖昧であるとの指摘を受け、検討を行った。結果、前者を「移植における患者教育と相談」、後者を「意思決定支援の方法」として、科目名及び内容を整理した。また「臓器移植看護」については膵臓、小腸移植を増やし

て欲しいとの意見を反映させたが、臓器別に受講内容を選択できるような、柔軟な受講システム体制については、今回のプログラム作成の中では検討していない。さらに受講生の多くが小児領域に関して内容を充実させて欲しいとの希望が強くあったため、「臓器移植看護」に小児の移植とその看護に関する単元を設けた。また演習科目である「フィジカルアセスメント」に小児のアセスメントの内容を追加した。

3) 最終案の作成

1)、2)の内容を踏まえ、「クリニカル移植コーディネーター看護師教育基準カリキュラム」の最終案を資料3の通り作成した。

D. 考察

別途、分担研究により文献等を基に認定看護師の養成課程相当として作成した暫定的な「クリニカル移植コーディネーター看護師教育基準カリキュラム」(資料1)に対する専門家と研修参加者の意見を基に、内容や時間数、表現などを改めて検討したところ、共通科目7科目(105時間)、専門基礎科目5科目(120時間)、専門科目5科目(180時間)、演習科目2科目(45時間)、実習科目(180時間)の計630時間となった。(資料3)

一般に認定看護師養成課程共通科目の「文献検索・文献講読」、「情報処理」については各々15時間とされているが、今回は多過ぎるとの意見を採用し、併せて15時間としたことを踏まえると、必修科目のみで630時間という構成は、他の認定看護師養成課程と比べてもかなり多いことになる。

新しい免疫抑制剤の開発、新しい術式や検査法の開発など医学的にも日々進歩がみられることや医学的知識一口に臓器移植といっても、臓器の部位や機能は様々であり、レシピエント・生体ドナー・家族に生じる問題点も変わってくることから内容が増えてしまうことはやむを

得ない面がある。

実施にあたっては今回のように網羅的な学習を行うカリキュラムではなく、受講者の要望や所属等を踏まえて学習内容を臓器別に選択制にするといった方法も考えられよう。

E. 結論

先に行った専門家ならびに研修参加者に対するヒアリングや調査を踏まえて、「クリニカル移植コーディネーター看護師教育基準カリキュラム」の教育内容や時間配分等について具体的に修正を加え、最終案を作成した。

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

予定を含め特になし

【研究協力者】

三輪聖恵 首都大学東京 健康福祉学部
看護学科 助教

資料

資料 1

「クリニカル移植コーディネーター看護師教育基準カリキュラム案①」
カリキュラム&シラバス（評価用暫定版）

資料 2

「研修生向け質問紙」

資料 3

「クリニカル移植コーディネーター看護師教育基準カリキュラム案」
カリキュラム&シラバス（最終案）

「クリニカル移植コーディネーター看護師教育基準カリキュラム案①」

教育課程の目的：			
1. 臓器移植のドナー・レシピエントおよびその家族に対して、個別的、全人的かつ専門性の高い看護を実践する能力を育成する。			
2. 臓器移植看護の専門的知識と実践力を基盤として、移植チームにおいてリーダーシップを発揮することができる能力を育成する。			
3. 臓器移植に携わる看護スタッフの指導・相談を行うことができる能力を育成する。			
4. ドナーの権利擁護に必要な支援を行うための能力を育成する。			
期待される能力：			
1. 臓器移植のドナー・レシピエントおよびその家族が、十分に適切な情報のもとに意思決定するように支援することができる。			
2. 臓器移植を受ける患者・家族の身体的・心理的・社会的状況を包括的に理解し、専門性の高い看護を実践できる。			
3. 臓器移植のドナー・レシピエントおよびその家族が、セルフケア能力やマネジメント能力を高められるように、適切な看護援助を行うことができる。			
4. 病院等の組織や臓器移植に関する医療サービス提供システム、社会保障制度、法律を理解し、移植チームの中で調整役としてリーダーシップを発揮することができる。			
5. ドナーの権利擁護者として必要な支援を行うことができる。			
6. 移植看護の実践を通して役割モデルを示すことができる。			
7. 看護スタッフに対して具体的な指導を行い相談に応じることができる。			
区分	研修科目名	内 容	時間
共通科目	リーダーシップ	集団や組織の目標や課題を達成する上で必要なリーダーシップ活動について、基本となる知識を学習する。実践の場において、質の高い看護ケアを提供していく上で必要な認定看護師のリーダーシップの役割について考察する。	15
	文献検索・文献講読	実践の場において、事例検討や看護研究の活用をしておく上で、関連文献を組織的系統的に検索し、入手し、解読してまとめる一連の過程に必要な、文献検索(コンピューター検索含む)について、基本となる知識や方法を学習する。また、文献を検討し、その活用や限界を知る。	15
	情報処理	実践の場において、情報を効率よく解析・表示・伝達する上で必要な基本となる知識や方法論を学習する。	15
	看護倫理	実践の場において、対象の人権養護・知る権利・自立性(自己決定)やQOLを高め保障するよう機能する上で必要な問題に対して、深い方法論を学習する。	15
	教育・指導	実践の場において、質の高い看護ケアを提供するために看護スタッフに対して、知識や技術を教育・指導する上で必要な知識や方法論を学習する。	15
	コンサルテーション	実践の場において、対象に必要な看護ケアを提供するために、対象及びスタッフに対して、コンサルテーションをしていく上で必要な知識や方法論を学習する。	15
選択	対人関係	実践の場において何らかの問題に直面し悩んでいる対象に対して、対象の話を聴きながら、共感的に対象の経験や気持ちを理解しようとする上で必要な面接の機能や進め方など、基本的な知識や技法について学習する。	15
	看護管理	保健医療組織における看護の役割機能を理解すると共に、役割機能を果たす上での看護管理システム上の諸問題を考察する。また、看護管理システムにおける認定看護師の位置づけや役割機能を理解し、効果的に展開するための戦略について考察する。	15
小 計			120

専門基礎科目	移植医療	<ol style="list-style-type: none"> 1 臓器移植のこれまで 2 移植医療のシステム 3 移植手術と侵襲性 4 移植免疫 5 免疫抑制剤 	30
	フィジカルアセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 1 身体系統別アセスメント技術 2 外来でのスクリーニング技術 	30
	ドナーとレシピエントのアセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 1 ヘルスアセスメント（フィジカル・メンタル・社会・心理） 2 免疫機能維持のアセスメント 3 痛みのアセスメント 4 家族のアセスメント 	30
	リスクマネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 1 リスクマネジメントの概要 2 環境・設備・医療機器の安全 3 感染防止対策 	15
	移植医療における倫理・法制度	<ol style="list-style-type: none"> 1 インフォームド・コンセントと看護師の役割 2 移植における法制度と社会保障制度 3 問題解決能力と資源の活用（臨床倫理委員会の活動等） 	30
	移植医療における理論と実践	<ol style="list-style-type: none"> 1 役割の開発：実践、指導、相談、調整（倫理調整を含む） 2 CTCNの社会的位置づけ及び移植チームにおける役割 3 生体ドナー及びレシピエントの権利擁護 4 移植医療の社会的評価と課題 	15
小計			150
専門科目	移植看護概論	<ol style="list-style-type: none"> 1 移植看護の特徴と課題 2 CTCNの社会的位置づけと移植チームにおける役割 3 CTCNの役割と職務 4 移植医療の社会的評価とCTCNの役割 5 移植医療における看護管理とCTCNへの支援 	30
	教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育の理論と方法 2 レシピエント 3 生体ドナー 4 家族 	15
	病態とケア	<ol style="list-style-type: none"> 1 肝移植と看護 2 肺移植と看護 3 腎移植と看護 4 心移植と看護 	60
	移植看護技術	<ol style="list-style-type: none"> 1 レシピエントの適応評価の調整・支援 2 レシピエントの移植前教育 3 レシピエントの術前準備 4 レシピエントの術後ケア 5 生体ドナーの適応評価 6 生体ドナーの術前準備 7 生体ドナーの術後ケア 8 意志決定を支える看護技術 9 円滑な移植手術への調整・支援 10 記録管理 	60
	移植看護技術指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 意思決定支援の指導 	15
	小計		

総合演習	1 文献演習：文献学習・査読を通して、病態・疾患・看護を分析し、看護を科学的・理論的に実践できる基礎を養う。 2 事例展開：事例を通して科学的・論理的な看護を展開する。 3 ケースレポート：臨地実習期間に経験した事例 1 例について、論文形式にまとめ発表する。	30
臨地実習	1 以下の看護経験を含むものとする 1) ドナーの看護 2) レシピエントの看護 3) 家族への援助 4) ドナー・レシピエントの調整 5) 移植チームのマネジメント 2 スタッフへの指導・相談 3 事例検討 臨地実習期間中に経験した事例を提示し、ケースディスカッションを行い課題の抽出と検討を行う。	180
小 計		210
必須科目計		600
選択科目計		30
共通科目		90 時間（+選択 30 時間）
専門基礎		150 時間
専門科目		180 時間
学内演習・実習		210 時間
総時間数		630 時間（+選択 30 時間）

専門基礎科目

科目名： 移植医療		30 時間
目標： クリニカル移植コーディネーター業務の基礎となる臓器移植の医学的・制度的概要を学び、必要な知識を講義により修得する。		
授業形式：講義・演習		
評価方法：試験		
	内容	時間数
臓器移植のこれまで	1) 世界における臓器移植の歴史 2) 日本における臓器移植の歴史	4
移植医療のシステム	1) 臓器移植に関する法律と脳死・心停止後・2) 生体移植実施の手順 3) 日本臓器移植ネットワークの役割と移植登録方法（演習を含む） 4) 臓器移植と経済的負担	6
移植手術と侵襲性	1) 心臓移植 2) 肺移植 3) 肝臓移植 4) 腎臓移植 5) 膵臓・膵頭移植 6) 小腸移植 7) 周手術期管理	12
移植免疫	1) 移植免疫と拒絶反応 2) 臓器移植後感染症	4
免疫抑制剤	1) 主要な免疫抑制剤の使用法と副作用	4

科目名： フィジカルアセスメント		30 時間
目標： 解剖・生理を踏まえた身体のフィジカルアセスメント技術と心理社会的なアセスメントが統合され、ホリスティックに対象者を理解できる。		
授業形式：講義・演習		
評価方法：試験		
	内容	時間数
身体系統別アセスメント技術	1) 循環器系 2) 呼吸器系 3) 消化器系 4) 脳神経系 5) 筋・骨格系 6) 乳房・生殖器系	24
外来でのスクリーニング技術	ミニマム・エッセンス	6

専門基礎科目

科目名：ドナーとレシピエントのアセスメント		30 時間
<p>目標：レシピエントの術前術後の身体的・心理社会的・精神的側面に加え、移植医療に特徴的である免疫機能と痛みの問題に関するアセスメントについて学ぶ。また、ドナーの手術に向けた身体的・心理的状态について理解しアセスメントの方法を学ぶ。ドナーとレシピエントの家族が直面する不安と困難について理解する。</p>		
<p>授業形式：講義</p>		
<p>評価方法：レポート及び討論参加度をあわせて評価する。</p>		
	内容	時間数
ヘルスアセスメント（フィジカル・メンタル・社会・心理）	1) ドナーのフィジカルアセスメント ①移植後の残存機能の問題 ②手術に向けた心肺機能の評価 ③感染症の種類 2) レシピエントのフィジカルアセスメント ①移植適応基準 ②手術に向けた心肺機能の評価 3) ドナーとレシピエントの心理アセスメント ①移植を待つレシピエントの不安 ②脳死ドナーへの罪悪感 ③生体ドナーの心理 4) レシピエントのスピリチュアリティ 5) レシピエントの QOL	12
免疫機能維持のアセスメント	1) 臓器移植後の拒絶反応の仕組み 2) 免疫抑制剤の種類と用量・使用期間	8
痛みのアセスメント	1) 疼痛の種類・部位・程度 2) 鎮痛薬及び自己疼痛管理法の効果 3) その他の疼痛コントロール法の効果	4
家族のアセスメント	1) 臓器移植を必要とする患者を抱える家族に対するカウンセリングと情報提供のあり方 2) 患者・家族の意思決定に沿った対応の仕方 3) 生体ドナーとなる家族の苦悩の理解 4) 海外渡航移植に伴う諸問題	6

科目名：リスクマネジメント		15 時間
<p>目標：リスクマネジメントの概念を理解したうえで、昨今の医療事故の動向と対応、分析と防止策について学習する。さらに移植医療に特徴的なリスク及び事故の種類について理解し、安全な環境の提供や効果的な事故防止策を学ぶ。特に移植後に注意を要する感染症の発生を防止するための基本的方策について学習を深める。</p>		
<p>授業形式：講義</p>		
<p>評価方法：レポート及び討論参加度をあわせて評価する。</p>		
	内容	時間数
リスクマネジメントの概要	1) リスクマネジメントの基本的理解 2) 医療事故の動向と対応 3) 医療事故分析の方法 4) 事故防止対策	5
環境・設備・医療機器の安全	1) 移植医療を安全に進めるための条件 2) 安全な移植医療の実現に向けた環境・設備・医療機器の整備	4
感染防止対策	1) 標準予防策と感染経路別予防策 2) 術後検査 3) 感染のハイリスクに対する対策 4) 感染制御チーム（ICT）の役割	6

専門基礎科目

科目名：移植医療における倫理・法制度		30 時間
目標：臓器移植医療における倫理に関する理解を促すとともに、抵触する法律に関する基本的な事項について理解できる		
授業形式：講義形式		
評価方法：レポート		
	内容	時間数
インフォームド・コンセントと看護師の役割	1) 看護倫理学とは 2) 倫理的課題 3) 倫理的ジレンマ 4) アドボケーターとしての看護職 5) インフォームド・コンセントへの関わり	14
移植における法制度と社会保障制度	1) 臓器移植と法律 (1) 臓器移植関連法の概説 (2) 臓器移植における承諾とは 2) 臓器移植と社会保障制度 (1) 保健医療制度 (2) 移植医療に対する社会的施策	14
問題解決能力と資源の活用(臨床倫理委員会の活動等)	1) 臓器移植に関連する社会的システムの理解	2

科目名：移植医療における理論と実践		15 時間
目標：		
授業形式：講義		
評価方法：レポート、グループワーク、授業への参加度		
	内容	時間数
実践のための理論的根拠	危機理論 システム理論 ストレス理論 家族システム論 リエゾン精神看護	9
理論的根拠に基づいた実践	精神医学的問題 レシピエントの心理的变化 ドナーの心理的变化と葛藤	6

専門科目

科目名：移植看護概論		30 時間
<p>目標：国内外における移植医療の変遷及び看護の現状を把握し、移植医療において CTGN がどのような役割を遂行すべきかを理解する。また、移植医療の全過程において患者や家族へ質の高い看護を提供するためには、CTGN と看護職者が有機的に連携することが重要であることを学習する。</p> <p>授業形式：講義、グループワーク</p> <p>評価方法：レポート</p>		
	内容	時間数
移植看護の特徴と課題	移植看護の変遷を踏まえ、移植医療における人々の心身ニーズの特徴と課題、及びそれらの問題解決に必要な看護、医療するシステム、CTGN（調整役）	8
CTGN の社会的位置づけと移植チームにおける役割	①移植医療に関する公的枠組みと CTGN の位置づけ。②移植チームの機能と構成メンバー及び移植チームにおける CTGN の役割 ③CTGN と看護職との連携	6
CTGN の役割と職務	①CTGN に必要な能力と期待される役割、教育と資格 ②職務内容：実践、指導、相談、調整（倫理調整を含む）	10
移植医療の社会的評価と CTGN の役割	日本における移植医療の社会的評価の検討、及び移植医療が真に人々の健康や生活の質向上に寄与できる医療として発展していく可能性の検討	2
移植医療における看護管理者の役割	組織における CTGN の位置づけと CTGN 及び移植医療に携わる看護職者に対する看護管理者の支援と役割	4

科目名：教育		15 時間
<p>目標：効果的な患者・家族への教育を行うために必要となる理論や専門知識の習得により臨床移植コーディネーター業務において必要な教育的能力を養成する。</p> <p>授業形式：講義・演習</p> <p>評価方法：試験</p>		
	内容	時間数
教育の理論と方法	1) 行動変容に関わる理論、教育方法論（教材作成）	4
レシピエント	1) 術前：移植に必要な情報提供 2) 術後：服薬とアドヒアランス、日常生活と 3) 感染予防、健康管理	5
生体ドナー	1) 術前：移植に必要な情報提供とその方法 2) 術後：健康管理の方法、レシピエントとの関わり方	4
家族	1) レシピエント及びドナーへの関わり方 2) 脳死ドナー家族へのグリーフケア	2

専門科目

科目名：病態とケア		60 時間
目標：各臓器の移植適応疾患の病態と看護の実際について理解を深める。		
授業形式：講義		
評価方法：		
	内容	時間数
肝移植と看護	1) 肝臓疾患と移植適応疾患 2) 肝臓移植適応疾患患者の抱える問題 3) レシピエントの術前看護 4) レシピエントの術後看護 5) 生体ドナーの術前看護 6) 生体ドナーの術後看護 7) 退院後から外来・病棟看護師との連携	15
肺移植と看護	1) 肺疾患と移植適応疾患 2) 生体肺移植レシピエントの術前看護 3) 生体肺移植レシピエントの術後看護 4) 生体肺移植ドナーの術前看護 5) 生体肺移植ドナーの術後看護 6) 脳死肺移植術前術後の看護 7) 退院後から外来・病棟看護師との連携	15
腎移植と看護	1) 腎臓疾患と移植適応疾患 2) 生体腎移植レシピエントの術前看護 3) 生体腎移植レシピエントの術後看護 4) 生体腎移植ドナーの術前看護 5) 生体腎移植ドナーの術後看護 6) 献腎移植術前術後の看護 7) 退院後から外来・病棟看護師との連携	15
心移植	1) 心臓疾患と移植適応疾患 2) 心臓移植の適応条件と除外条件 3) 待機レシピエントの術前管理と看護 4) 補助循環装置装着中の看護 5) レシピエントの術後看護 6) 退院後から外来・病棟看護師との連携 7) まとめ	15

専門科目

科目名：移植看護技術		60 時間
目標：		
1. 臓器移植のプロセスについて理解する。		
2. レシピエント・ドナーの適応評価ができる。		
3. レシピエント・ドナーおよびその家族の意思決定のための支援ができる。		
4. レシピエント・ドナーおよびその家族に術前・術後の看護援助を展開・評価することができる。		
5. 移植チームの中での役割を理解する。		
授業形式：講義および GW によるケーススタディ		
評価方法：試験 60% レポート 40%		
	内容	時間数
レシピエントの適応評価の調整・支援	1) 適応基準と除外条件 2) 身体評価（心肺機能、免疫機能、腎機能、がんスクリーニング） 3) 心理社会的評価	8
レシピエントの移植前教育	1) 診療計画、手術経過、フォローアップ外来	6
レシピエントの術前準備	1) 術前検査・処置 2) 移植プロトコール 3) レシピエントおよび家族の心理	8
レシピエントの術後ケア	1) 拒絶反応 2) 感染症と感染管理 3) コンプライアンス・コーピング	8
生体ドナーの適応評価	1) 身体評価（残存機能・心肺機能評価） 2) 心理社会的評価	4
生体ドナーの術前準備	1) 術前検査・処置 2) 移植プロトコール	4
生体ドナーの術後ケア	1) 術後リハビリテーション	4
意志決定を支える看護技術	1) 情報提供のあり方 2) 意志決定のプロセスとコミュニケーション技術 3) 家族間の意思調整、権利擁護について	8
円滑な移植手術への調整・支援	1) 移植チームメンバーの連携と調整 2) 社会資源の活用	8
記録管理	1) 臓器移植に関わる法的書類 2) 情報の共有と個人情報保護	2

科目名：移植看護技術指導		15 時間
目標：脳死及び生体ドナー、レシピエント及びその家族の意思決定をどのように支援していくかについて、事例演習を行う		
授業形式：講義・演習		
評価方法：課題提出、レポート		
	内容	時間数
意思決定支援の指導	1) 脳死ドナー (1) 移植までのプロセス (2) レシピエント・家族に対する意思決定のプロセス (3) 家族の諸問題と支援 2) 生体ドナー (1) 移植までのプロセス (2) ドナー評価について (3) ドナー・家族に対する意思決定のプロセス (4) 家族の諸問題と支援	15

■別紙「クリニカル移植コーディネーター看護師教育基準カリキュラム案」をご覧ください、

問1～8の質問項目について○印を頂き、該当される方は下段にご意見をお書き下さい

問1. 「教育課程の目的」は妥当だと思いますか



全くそう
思わない
あまりそう
思わない
少し
思う
かなりそう
思う



上記で「全くそう思わない」、「あまりそう思わない」と方はその理由をお書き下さい

()

問2. 「期待される能力」は妥当だと思いますか



上記で「全くそう思わない」、「あまりそう思わない」と方はその理由をお書き下さい

()

問3. 「共通科目」はカリキュラムとして妥当だと思いますか



上記で「全くそう思わない」、「あまりそう思わない」と方はその理由をお書き下さい

()

問4. カリキュラムの総時間数：630時間（+選択30時間）は多いと思
いますか



上記の理由をお書き下さい

()

問5. 「専門基礎科目」の下記科目について、カリキュラムとしての必要性と内容の妥当性についてお聞かせください

	全く必要でない	あまり必要でない	少し必要	かなり必要	全く妥当でない	あまり妥当でない	少し妥当である	かなり妥当である
1) 移植医療	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
2) フィジカルアセスメント	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
3) ドナーとレシピエントのアセスメント	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
4) リスクマネジメント	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
5) 移植医療における倫理・法制度	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
6) 移植医療における理論と実践	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —

問6. 上記「専門基礎科目」について、不要もしくは追加した方がいいと思われる科目（もしくは内容）がありましたら、下記に自由にお書き下さい

()

問7. 「専門科目」の下記科目について、カリキュラムとしての必要性と内容の妥当性についてお聞かせください

	全く必要でない	あまり必要でない	少し必要	かなり必要	全く妥当でない	あまり妥当でない	少し妥当である	かなり妥当である
1) 移植看護概論	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
2) 教育	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
3) 病態とケア	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
4) 移植看護技術	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
5) 移植看護技術指導	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
6) 総合演習	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —
7) 臨地実習	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —

問8. 上記「専門科目」について、不要、追加した方がいいと思われる科目（もしくは内容）がありましたら、下記に自由にお書き下さい

()

問11. その他、カリキュラムに関してご意見・ご要望等がありましたら、下記に自由にお書き下さい

■ ご自身のことについてお聞かせ下さい

問1. あなたの臨床経験の年数をお聞かせください（平成21年3月までとして）

- 一般病棟経験 () 年間
 移植病棟経験 () 年間 ←該当する方のみ
 移植コーディネーター () 年間 ←該当する方のみ
 その他 () 年間 ←該当する方のみ

問2. 現在の所属をお聞かせください

- ①一般病棟看護師 ②移植病棟看護師 ③移植コーディネーター ④その他 ()

問3. 今後クリニカル移植コーディネーターが資格化された場合、その資格を取得したいと思いますか

- ①是非取得したい ②可能なら取得したい
 ③特に取得したいとは思わない ④その他 ()

以上です

ご協力ありがとうございました

なお返信封筒にてご投函のほど、どうぞよろしくお願い致します

「クリニカル移植コーディネーター看護師教育基準カリキュラム案」

教育課程の目的：

本課程の受講者は、現在移植コーディネーターの役割を担っている看護師およびCTCNとしての業務に就くことを希望する看護師を対象とする。

1. 臓器移植のレシピエント・生体ドナーおよびその家族に対して、個別的、全人的かつ専門性の高い看護を実践する能力を育成する。
2. 臓器移植看護の専門的知識と実践力を基盤として、移植チームにおける調整の中心的役割担うための能力を育成する。ここでいう移植チームとは、レシピエント・生体ドナーおよびその家族と移植医療に携わるスタッフを指す。
3. 臓器移植に携わる看護スタッフの指導・相談を行うことができる能力を育成する。
4. レシピエント・生体ドナー・家族の権利擁護に必要な支援を行うための能力を育成する。

期待される能力：

1. 臓器移植のレシピエント・生体ドナーおよびその家族が、十分に適切な情報のもとに意思決定するように支援することができる。
2. 臓器移植を受ける患者・家族の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を包括的に理解し、専門性の高い看護を実践できる。
3. 臓器移植のレシピエント・生体ドナーおよびその家族が、セルフケア能力やマネジメント能力を高められるように、適切な看護援助を行うことができる。
4. 病院等の組織や臓器移植に関する医療サービス提供システム、社会保障制度、法律を理解し、移植チームの中で調整役として中心的役割を担うことができる。
5. レシピエント・生体ドナー・家族の権利擁護者として必要な支援を行うことができる。
6. 移植看護の実践を通して役割モデルを示すことができる。
7. 看護スタッフに対して具体的な指導を行い相談に応じることができる。
8. 臓器移植・臓器提供に関する課題について啓発活動を行うことができる。

区分	研修科目名	内 容	時 間
共通 科目	リーダーシップ	集団や組織の目標や課題を達成する上で必要なリーダーシップ活動について、基本となる知識を学習する。実践の場において、質の高い看護ケアを提供していく上で必要な認定看護師のリーダーシップの役割について考察する。	15
	文献検討・情報処理	実践の場において、事例検討や看護研究の活用をしておく上で、関連文献を組織的系統的に検索し、入手し、解読してまとめる一連の過程に必要な、文献検索（コンピューター検索含む）について、基本となる知識や方法を学習する。また、文献を検討し、その活用や限界を知る。また情報を効率よく解析・表示・伝達する上で必要な基本となる知識や方法論を学習する。	15

必須	看護倫理	実践の場において、対象の人権養護・知る権利・自立性（自己決定）やQOLを高め保障するよう機能する上で必要な問題に対して、深い方法論を学習する。	15
	教育・指導	実践の場において、質の高い看護ケアを提供するために看護スタッフに対して、知識や技術を教育・指導する上で必要な知識や方法論を学習する。	15
	コンサルテーション	実践の場において、対象に必要な看護ケアを提供するために、対象及びスタッフに対して、コンサルテーションをしていく上で必要な知識や方法論を学習する。	15
	対人関係	実践の場において何らかの問題に直面し悩んでいる対象に対して、対象の話を聴きながら、共感的に対象の経験や気持ちを理解しようとする上で必要な面接の機能や進め方など、基本的な知識や技法について学習する。	15
	看護管理	保健医療組織における看護の役割機能を理解すると共に、役割機能を果たす上での看護管理システム上の諸問題を考察する。また、看護管理システムにおける認定看護師の位置づけや役割機能を理解し、効果的に展開するための戦略について考察する。	15
小計			105

専門 基礎 科目	移植医療のシステム	1 臓器移植のこれまで 2 移植医療のシステム 3 リスクマネジメント 4 感染管理	15
	移植医学	1 移植手術とその侵襲 2 移植看護に必要な基礎医学 3 移植免疫 4 感染症	30
	レシピエント・生体ドナー・家族のアセスメント	1 レシピエント・生体ドナーのヘルスアセスメント （身体・心理社会・スピリチュアリティ） 2 家族のアセスメント	30
	移植医療における倫理・法制度	1 移植における法制度と社会保障制度 2 インフォームド・コンセントと看護師の役割 3 問題解決能力と資源の活用（臨床倫理委員会の活動等） 4 諸外国の状況 5 事例演習	30
	移植医療における理論の活用	1 実践のための理論的根拠 2 理論の活用	15
	小計		

専門科目	移植コーディネーター概論	1 移植看護の特徴と課題 2 CTCNの社会的位置づけと移植チームにおける役割 3 CTCNの役割と職務 4 移植医療の社会的評価とCTCNの役割 5 移植医療における看護管理者の役割	30
	臓器移植看護	1 肝移植と看護 2 肺移植と看護 3 腎移植と看護 4 膵臓移植と看護 5 心移植と看護 6 小腸移植と看護 7 小児の移植と看護	60
	移植プロセスと調整	1 レシピエントの適応評価の調整・支援 2 レシピエントの移植前教育 3 レシピエントの術前準備 4 レシピエントの術後ケア 5 生体ドナーの適応評価 6 生体ドナーの術前準備 7 生体ドナーの術後ケア 8 円滑な移植手術への調整・支援 9 円滑な移植手術への調整・支援	60
	移植における患者教育と相談	1 教育の理論と方法 2 レシピエント 3 生体ドナー 4 家族 5 移植チーム	15
	意思決定支援の方法	1 意思決定支援の方法	15
	小計		

演習 科目	フィジカルアセスメント	1 身体系統別アセスメント技術 2 外来でのスクリーニング技術	30
	総合演習	1 文献演習 2 事例展開 3 ケースレポート作成	15
	小 計		45
実習 科目	臨地実習	1 以下の経験を含むものとする 1) レシピエントのコーディネーション 2) 生体ドナーのコーディネーション 3) 家族への援助 4) レシピエント・生体ドナー・家族間の調整 5) 移植チームの調整とマネジメント 2 スタッフへの指導・相談 3 事例検討 臨地実習期間中に経験した事例を提示し、ケースディスカッションを行い課題の抽出と検討を行う。	180
	小 計		180
必 須 科 目 計			630
共通科目			105 時間
専門基礎科目			120 時間
専門科目			180 時間
演習科目			45 時間
実習科目			180 時間
総時間数			630 時間

専門基礎科目

15時間

科目名：移植医療のシステム

目標：クリニカル移植コーディネーター業務の基礎となる臓器移植と関連するシステムの制度的概要を学び、必要な知識を講義・演習により修得する。

授業形式：講義・演習

評価方法：試験及びレポート、討論参加度をあわせて評価する。

	内容	時間数
臓器移植のこれまで	1) 世界における臓器移植の歴史と法律 2) 日本における臓器移植の歴史と法律	2
移植医療のシステム	1) 脳死・心停止後の移植の流れ 2) 日本臓器移植ネットワークの役割と移植登録方法（演習を含む） 3) 生体移植実施の流れ 4) 臓器移植と経済的負担	6
リスクマネジメント	1) リスクマネジメントの基本的理解 2) 医療事故の動向と対応 3) 医療事故分析の方法 4) 移植医療を安全に進めるための条件 5) 安全な移植医療の実現に向けた環境・設備・医療機器の整備	3
感染管理	1) 標準予防策と感染経路別予防策 2) 感染制御チーム（ICT）の役割 3) 術後検査 4) 感染のハイリスクに対する対策	4

30時間

科目名：移植医学

目標：クリニカル移植コーディネーター業務の基礎となる臓器移植の医学的知識を講義により修得する。

授業形式：講義

評価方法：試験

	内容	時間数
移植手術とその侵襲	1) 心臓移植・心肺同時移植 2) 肺移植 3) 肝臓移植 4) 腎臓移植 5) 脾臓・脾頭移植、脾腎同時移植 6) 小腸移植 7) 周手術期管理 8) 生体ドナーの適応と手術・術後合併症	18
移植看護に必要な基礎医学	1) 精神医学 2) 小児科学	4
移植免疫	1) 移植免疫と拒絶反応	2
感染症	1) 臓器移植後感染症 2) その他の感染症（HCV, HBV, HIV等） 3) 抗生剤と抗ウイルス剤の使用法	6